

2022 年度活動報告(教育部)

理事：権田、スミス、

【総括】

コロナ禍における児童生徒数の激減にともなう、財政への圧迫と、学校運営において継続されてきた踏襲の弊害が確認され組織、管理体制、雇用体制を通しての財政の見直しが行われその対応に追われた一年であった。課題解決への方向性が見え、就業規則の刷新改訂、職務評価を通しての賃金改定などに取り組む事ができた。23年度に向けては DPHSSの検査結果 D に対しての改善の実施や、学校職員の共通理解を即すオリエンテーションなどを経て、学校を取り巻く環境を改善し児童生徒数を増加させ、この財政危機を乗り越えたい。

【具体的活動】

項目	取り組み内容	次年度への課題
日本人会チャリティーゴルフ	マンギラオゴルフにて93名の参加を得て2022年度分として\$11000を日本人学校に寄付できた。	協賛の範囲を広げ、さらなる寄付金の増額をめざす。
学校理事会議事内容 ① 財政の見直し	2019年のコロナ禍前と2022年では全日、補習授業校とも児童生徒数が半減し、財政圧迫の大きな原因となった。幼稚部、全日、補習授業校活動を広く周知する事により、体験入学、語学クラス、検定試験への参加を増やすように努める。	学校行事を通しての日本人学校の良さを発信し、常時生徒児童数を増やすように外部団体とも積極的に連絡を取り合う。 OB.OGからの寄付集めの推進。 23年度より授業料3%、施設維持費5%のアップ。3年間は継続して値上げ予定。
② 雇用関連における賃金等の変更改善	補習授業校講師の時給におけるダブルスタンダードの改善、福利厚生の見直し、これまでの給与等級リストの見直し。従業員ハンドブックの刷新改訂。	職員の職務と評価を踏まえての昇給システムの構築
③ 学校組織の相互協力の在り方	一つの校舎を使用する全日、補習授業校、幼稚部のコミュニケーションが円滑にできるように、職務、権限、責任、評価を明確にし風通しの良い学校運営を図る。	4/21/23に学校職員へのオリエンテーションを行い、就業規則、日本人学校の特殊性、課題を認識し解決に向けての取り組み方などを模索する。
日本人学校課題可視化(タスクフォースチームによる)	日本人会理事/学校理事によるタスクフォースチームを作り、学校財政の課題を可視化し、日本人会理事会でもその認識を共有する。	財政課題の早急な解決策の策定と着実な実行を学校理事会のみならず、日本人会理事会でも積極的に関与し解決を諮る。また財政面よりこの後をシュミレーションする。

DPHSS の学校衛生検査結果D判定への対応	3/15/23 に DPHSS による学校検査があり、D 判定を受けた事を踏まえ、危機管理の不備、法令順守への不備などを 4/1/23 の説明会にて保護者に謝罪し、今後の対策を明確にした。6/11/24 までに衛生管理規則に準じた対応を終了し再検査を受ける。	DPHSSと連絡をとりながら、順次改善を進める。経費の掛かる案件に関しては、代替案を承認してもらい対応を図る。
------------------------	---	---

4/20/23 改訂

以上